

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101494		
法人名	社会福祉法人見松会		
事業所名	グループホーム華の苑		
所在地	長崎県長崎市中里町1188-1		
自己評価作成日	令和 4年 8月 15日	評価結果市町村受理日	令和4年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 4年 9月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・入居者の暮らしの継続を目指し、入居者の視点に合わせたケアの提供を行っています。入居者が安心・安全に生活を送れるよう、地域・医療と協力しながらケアを行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人で分野別に委員会組織が組まれており、職員は各委員会に所属している。中でも、身体拘束廃止委員会では、今年度から毎月「優しい介護」をテーマに職員間で「優しい対応」、「気をつけたい対応」について気づいた点を抽出・検討後、法人の委員会に課題点を報告し、協議する取組を行っていることは高く評価できる。新型コロナ禍のため面会制限中であるが、全家族とLINEを利用し動画や写真、ビデオ通話で連絡を取っている他、定期的に季節行事の写真を載せた家族通信を送る等、家族との絆が深まるよう支援している。また、入居者の誕生日に合わせ当日に祝う他、折り紙教室や菓子作り等、笑顔で暮らしている様子が窺える。理念にある『個々の自立と「笑」「楽」の生活』に沿い、職員が入居者の視点に合わせ、意向に沿いながら、毎日の暮らしを温かく支援する事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についての施設内研修を開催し、周知・実践に繋げている。	玄関の掲示板や事務所に理念を掲げ、職員の意識を高めている。年度初めの法人理念をテーマとする施設内研修において、職員は理念の理解を深めている。理念にある、『個々の自立と「笑」・「楽」の生活』に沿い、入居者の視点に合わせ具現化に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流の場が増やせるよう地域行事への参加を予定していたが、コロナ禍でもあり参加が出来ていない。	新型コロナ禍以前は入居者と共に、地域行事への参加等地域交流を図っており、収束後には再開予定である。自治会に加入し、玄関前の掲示板では家族通信を発信している。また、近隣から裏手川沿いの清掃の協力を得ている他、介護相談の問い合わせも受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援の内容については事業所通信の発行や見学等で理解を得ているが、実際に地域の方に向けて活かす事は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で、行事の取組みや事故の発生状況・研修の報告を行っている。また参加者より意見をいただき、サービス内容の見直しに繋げている。	今年度は新型コロナ禍のため書面会議で対応している。全家族と運営推進委員へ活動報告書を返信用の書式も同封し配付しており、感想や意見を得ている。ただし、議事録からは、どの委員からの意見であるかが不明である。また、それに対する事業所による返答の掲載が十分ではない。	書面会議においても、運営推進委員からの質問や意見は貴重であるため、意見交換内容を明確にし、サービス向上に繋がるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があれば市の担当者へ連絡を取り、確認を行っている。	今年度は、行政からオンラインによる研修の案内があり参加している。日頃から、運営における手続きや不明な点を問い合わせる等協力関係を築いている。場合によっては、家族の代行として職員が申請手続きを行っている。必要時は本部と都度連携し、必要な情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を法人内で設置し、委員会・施設内研修の開催を行っている。各職員が身体拘束についての理解をし、身体拘束をしない環境作りに努めている。	法人本部で、身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催しており、今年度から毎月「優しい介護」をテーマに「優しい対応」「気を付けたい対応」を抽出・検討後、本部へ報告している。また、年2回の施設内研修も開催する等、身体拘束をしないケアについて理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアがされていないか日頃のケアをお互いに確認し合い、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利擁護について学べる機会がもてるよう努めている。また、利用者に利用の必要性が生じた場合は、活用ができるよう関係者との連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に同意を得ている。利用者本人・家族より問い合わせがあれば、担当よりその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内に意見箱を設置している。また面会や電話連絡等で意見や要望を確認している。	コロナ禍で家族の面会を中止しているが、感染者数が減少傾向にある時は時間を設けて面会を行っている。以前は個々に写真を掲載した便りを郵送していたが、現在はLINEにて動画を送ったり、ビデオ通話にて互いに顔を見ながら会話することもできており、家族には好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議を毎月開催し、運営状況の報告を行っている。また、何かあれば意見交換を行っている。	毎月のケア会議は事前に議事内容を募り、夜間専門職員も含め全職員が出席して行っている。休憩の取り方について協議し、休憩室を設け1時間休憩している。また、残業ゼロを目指し、出退勤時には職員同士で声を掛け合っている。希望休も反映しており、職員にとって働きやすい職場環境となるよう取り組んでいることがわかる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが目標を設定し、達成に向けての取組みを行っている。また、定期的に面談を実施し、目標達成状況の確認や、業務内容についての確認を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や外部研修へ参加をし、スキルアップに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと連絡を取り合い、他事業所と交流する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時や日々の生活の中で、利用者の想いを聴き取り、安心して過ごせる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時やケアプランの更新時・利用者の状態の変化がみられた際は家族へ説明を行い、意見や要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合わせて対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれに合わせて作成されたケアプランをもとに、その人らしく生活を送っていただけるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は家族へ日頃の様子を伝えるようにしている。また、コロナ禍で面会が難しい状況でも、メールや電話連絡で様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出が制限されている状況にある。	コロナ禍で馴染みの人との面会が難しくなっており、職員はLINEを駆使して関係継続に努めている。家族から届く手紙や写真に本人が礼状を書く際には、職員が投函までサポートしている。また、公園に散歩に行くと近所の人から声を掛けられることも多く、職員が仲立ちして会話を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれに合わせた活動を行い、職員や利用者同士の関わりがもてるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係性が築いていけるよう入居者の退居後の様子を定期的に伺う機会をもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族へ意向の確認を行い、それぞれに合わせたケアに努めている。	入居時に本人・家族から生活歴を聞き取っており、入居者全員に24時間シートを作成し、支援に役立てている。起床、就寝は自由であり、起床時は居室で本人が衣類を選択し、職員がサポートして着替えている。難聴の場合は、筆談することもある。表出困難な入居者にはケアしながら本人の意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や嗜好等を聴き取り、ケアに活かしている。また日頃の関わりの中で得た情報も職員内で申し送り周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア会議を毎月開催し、対応の検討や情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族のニーズを把握し、一人ひとりに合わせたケアプランを作成している。	入居開始より暫定プランを立て、1ヶ月で見直し本プランに移行している。その都度本人・家族の意向を取り入れると共に、担当制による職員と計画作成担当者が協議し見直している。前回の評価後、ケアプランの実施状況が分かる新様式を作成しており、24時間時系列にプラン毎の番号を記載し詳細な記録へと改善している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録へ様子を記入し必要な申し送りを行う事で、情報の共有・ケアの見直しに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族のニーズを把握し、状態に合わせたサービスの提供に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域活動への参加や、近隣への散歩を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診にてかかりつけ医と利用者の状態の確認を行っている。	契約時にかかりつけ医は継続できると伝えており、現在は全入居者が協力医を受診している。また、月2回の往診を受けている入居者もいる。基本的に通院は家族同行で、都合によっては、職員が支援している。心療内科は、母体法人の医療機関を受診でき、法人と連携した受診支援が確認できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日情報報告シートを提出し、利用者の状態や気付き等を申し送っている。また、必要に応じて電話連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを作成し情報の提供を行っている。定期的に治療の状況や利用者の状態等を確認し、退院後の対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する方針を定め、家族・主治医と情報を共有している。	事業所としては、看取りを行わない方針であることを定めている。重度化した場合の指針を、入居時に本人・家族へ説明し同意を得ている。入居継続が困難となった場合は、再度主治医を交えて説明している。また、方針には無いが、急変時等に備え施設内研修で看取り研修を実施し、職員の理解を深め不安を軽減していることは高く評価できる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について定期的に研修を実施し、スムーズな対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練を実施し、状況に合わせた対応がとれるようにしている。	毎月の自主訓練では、避難、通報、消火訓練を実施し、消防設備業者による消火器の操作指導を受けている他、火災・防災等に関するテストにより知識を深めている。総合訓練は年1回消防署立会いで実施している。ただし、自然災害に対する訓練等対策が十分とはいえない。また、避難先用の持ち出し備品を整備していない。	近年の大雨発生頻度の増加や浸水被害の多発等に備えるためにも、自然災害対策への取組が待たれる。また、非常災害時、入居者が避難先で困らないよう、個人情報等をまとめた持ち出し備品の整備が求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して不適切な言葉かけをしていないか、職員間で確認をする機会を設けている。	職員が入居者を呼ぶ時には基本的に苗字にさん付けとしており、家族の希望があれば聞き取って対応している。職員は、居室への入室時は丁寧にドアノックし、排泄等の失敗時にはさりげなく対応している。個人記録は入居者から離れた場所で行う他、個人情報に関わるファイルは所定の場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がどうしたいか、どう過ごしたいかをその都度確認し、自己決定できるような関わりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者に合わせた暮らしを尊重し、それぞれのペースに合わせて過ごしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服を選んでいただいたり、洗面時は鏡で確認していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者の嗜好を把握し、できるだけ好みに合わせて提供している。また、準備や後片付け等出来る事は利用者と一緒にやっている。	食事は外注食と手作りと混合で提供している。入居者の嗜好は聞き取り把握しており、更に常食、ミキサー食、トロミ食など個別に対応している。本人の誕生日にはケーキで祝う他、季節に因んだ手作りのおやつを提供し、喜ばれている。コロナ収束後は、ドライブスルーのハンバーガーが希望で挙がっており、今から楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分の摂取量を把握し、体調の管理を行っている。また状態に合わせた食事形態での提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを確認し、それぞれに合わせてトイレ誘導やおむつの使用・検討を行っている。	入居者の多くは職員が排泄パターンを把握して定期的な声掛けで支援している。夜間にポータブルトイレを使用する利用者もあり、夜勤の職員は上下階を見守るため、こまめに巡視を行っている。リハビリパンツやパッドの大きさはケア会議で検討し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動への参加をこまめに促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の入浴日や時間帯があればその都度対応している。	週2、3回の入浴は、基本的には午前中であるが、自立度が高い入居者は希望に沿って午後でも支援している。また、同性介助の希望にも対応しており、本人が気持ちよく入浴できることを最優先に考えている。浴槽に浸かる以外にシャワー浴の希望もある。職員は一对一で支援しており、季節の柚子湯も好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は安心して休めるよう温度や湿度に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員が確認できる場所に保管し把握に努めている。また服薬マニュアルを作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に合わせた家事の手伝いや活動ができるよう声掛けし一緒にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外への散歩を定期的に取り入れている。	コロナ禍以前は、外出の機会も多かったものの現在は感染予防の観点から回数が減少している。その中でも職員は、入居者のストレス軽減のために、近くの公園に散歩に出掛けたり、屋内でも窓を開けて風を通し、日差しを入れて日光浴や外気浴ができるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が難しくなっても、職員が買い物へ代行し支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食堂、浴室等快適に過ごせるよう電球の色や室温等に配慮している。	リビングでは、日中は大半の入居者が集い、ゆっくりとソファに座り、新聞を読んだり、テレビを観覧したり、職員と折り紙等を楽しみながら過ごしている。キッチンを背にテーブルが並んでおり、入居者が米とき等食事作りの準備を行っており、家庭的な環境である。職員は常時清潔を保ち、採光調節・空調管理に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室にはなじみのある物を置いたり、ゆっくりできるソファを置く等設えに工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある物を持ち込んでもらうよう家族へ依頼し、居心地の良い空間が作れるようにしている。	民家を改築した馴染み深い居室で、1階と2階に分かれており、エレベーターの設置もある。1階の入居者の多くは手すりを使用し、階段で移動している。持ち込みに制限はなく、家族の写真や仏壇等、これまでの暮らしを継続する様子が窺える。職員は温湿度計による温度調節や寝具管理、清掃等を行い、環境整備を担っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置をし出来るだけ安全に移動が出来るようにしている。		